

コーディネーター：川北秀人氏（IIHOE）

パネリスト：松下典子氏（特）ゆいの会理事

神谷典江氏（特）穂の国まちづくりネットワーク代表理事

島田善規氏 市民協働ネットワーク リニモねっと代表

<パネリスト自己紹介>

（神谷）

豊川市からやって来た。中間支援に関わる活動を15年間続けている。今は、NPOの代表理事の他に、民生委員も8年間務めている。

本業は建築士。会社経営の他に、NPOではスタッフを3名雇用している。

今日の感想としては、みなさん無難にまとめている印象を受けた。若い方たちもいる割に、すぐ目の前の課題に取り組んでいる視点で話をされていると感じた。

（島田）

以前は公務員をしていた。退職していろいろなことをしている。こんなに参加者が大勢いるのは、みんな地域連携の問題を抱えているからだろう。

成功事例の中にもヒントはいっぱいあったが、「とは言ってもうちでは、、、」と思った方もいると思う。円卓会議のような場は、うまくいかない場合も多い。うまくいく理由、うまくいかない理由は、すぐには一般化できない部分もあるだろう。

それでも私は、協議の場のデザイン（運営の仕方、やり方）が大切だと感じている。デザインを考える上で、協議の場で話し合う、お互い理解し合う、合意形成する（いろんな意見があることを含めての合意形成）こと。

また、話し合ってから決めて実行していくプロセスと、デザインは分けて考える方がいいと考えている。話し合ってから、実行まで持って行きたいと考えていると聞いたが、それは難しいのではないかと感じた。自分もよく分かってないからこそ、みなさんと一緒に勉強していきたい。

（松下）

1991年に、ゆいの会を立ち上げた。今は、さわやか福祉財団の新しいふれあい社会をつくる活動に主軸を置いて活動をしている。ゆいの会の活動しながら、「ネットワーク作り」に対して早い時期から意識し、サポートしたを立ち上げ、2年前に去った。

実践を通して、地域の課題を解決する為には、どことつながればいいのかを考えることが自分の課題だった。活動を継続するにつれ、少しずつ行政や社協もこちらを見てくれるようになったと感じている。

グループを見て回る中で、まだNPOが社会から信頼を得ていないことを感じた。NPOと協働だということは所々で聞くが、まだまだ弱い。

活動の仲間たちにとっても、話し合いは大切。しかし、自分たちの仲間だけで繰り返してはダメ。地域にはいろんなセクターの、いろんな課題を抱えた人たちがいる。こういう多様な人が集まる場こそ、これから地域でもっと必要。

行政や社協、子供会、老人会、コミュニティなどいろんな組織がある。どこの組織も行き詰まっている。それでも、持っている課題は共通している。それがなかなか交わらない。今日参加したみなさんが、自分の地域の呼びかけ人になってほしい。

誰かが声をかけない限り円卓会議はできない。

新しい公共というタイトルの中で、全く新しい時代を作ろうとしている。私たちがこれから生きる社会は、これまでとは全く新しい時代。今持っている個々の課題は、それを解決すべく行動するからこそ、豊かで安全な地域を作って行ける。

< 質疑応答 > (敬称略)

・残り30分程度に14問の質問に応えたい。(川北)

話し合いになれていない主体が集う場の運営はどうしたらいいか？

★ 最初は必ずごちゃごちゃする。回を重ねていくこと。テーマ設定は具体的に行うこと。(島田)

地域内の関心の有無の差をどう埋めるのか？

★ 差はどこにもある。相手の関心がどこにあるのかを、聞き合い、認め合うことがなければどんなに良い協議の場を設定しても進んでいかない。それは、自分自身の成長にもつながる。自己研鑽の場としてやっていくのがいいのでは。(神谷)

有識者はどのように起用すればいいか？

★ 私からは起用される立場として応えたい。参加者との相性なども鑑みると、自分よりこの人に依頼した方がいいのではと思う案件もある。同じようなことをしている人は他にもたくさんいる。起用を考えている人に連絡する前に、すでにその人を呼んだことのある主催者に電話等して、向き不向き等を教えてもらうといい。きちんと事前に調べること。(川北)

療育という言葉を広げるにはどうしたらいいか？

★ 療育という言葉は福祉などでも使われているが、解釈の幅が広がってきている。その言葉を知ってもらうために、何を伝えないといけないのか考え、広い視野で情報発信しては。(松下)

★ 介護事業は新しい時代の新しい福祉政策だった。学習と、学習をPRする方法も考える必要があった。事例や現場で伝えて行くこと。(松下)

気づいた課題に対しどう動き出すのか。どこまで自分で？ 行政にはどこから持って行くのか？

★ まずは率直に行政に相談に行く。担当部署があるはず。もしくは、身近に興味のありそうな方を巻き込み、地道に動いて行く。(島田)

★ とりあえず、行政窓口に行く。まずは相談に乗ってくれた人の顔色を偵察する。(神谷)

★ まず自分が動くこと。動いて伝えていくこと。(松下)

★ 関係を壊しに行くのではなく、大切だからこそ、早めに相談する。あと、地元の窓口に行く前に先進事例などの情報を検索することを勧めている。(川北)

組織の出席者としてどう人選するか。(代表と出席してほしい人が違う場合が多い)

- ★ 行政はマルチステークホルダーの会議を山ほど実施している。課題を発見するところから話が始まっているところが、既存の会議と違うところ。利害が関わっている人を巻き込まないと失敗する。しかし、ステークホルダーに会議に出席してもらうのはとても大変で、難しい。みんな「関係ない」という。出てきた人が権限を持っていない場合もある。組織の意志決定する人が出てこないとなんも決められない。悩みは分かるが、解決策はなかなかないのではないかと。(島田)
- ★ 那覇の事例。代表者の後ろに関係者に座ってもらう二重円卓という手法をとった。おススメは代表の人に随行を連れてきてもらうこと。当初の予定の2倍の人が集まる。それで目線合わせが非常に楽になった。複数代表制。会議中も後ろの席の人と相談する時間を設けるといい。(川北)
- ★ 類似の団体の3、4番手の人にこっそり話をつける。団体の出席者のポジションを合わせる。(島田)

円卓会議の事務局は行政以外では誰がふさわしいのか？

- ★ 円卓会議の呼びかけは行政でないほうがいいと思う。中間的な支援センターのスタッフや地域で活動しているNPOのリーダーなど。問題解決をしたい人が呼びかけた方がいいと思う。(松下)
- ★ コストはどうする？(川北)
- ★ NPOがいろんなつなぎ役をしているがコストがない。行政と話し合わないと持続可能なものにならない。(松下)
- ★ 事務調整役は行政がいいと思う。ファシリテーター役は、思い熱い人がいいだろう。(神谷)
- ★ 中間支援の団体が本来業務と位置づけるかどうか。自分たちで資金調達をしてもこのリスクは取らないといけな。どこからも事務局費が出ない。中間支援団体は本来業務だと思って腹をくくって、基盤作りをしてほしい。行政は、中間支援的な団体があれば、そこと協働して進めてほしい。基盤作りのための会議を分業で担い合う。調整は、行政がやるといいが、準備や広報の部分を官と民とが協働してやるべき。国で行っている会議は、会議室代をみんなで払っている。(川北)

行政の縦割りを崩すには？

- ★ 崩れない。縦割りこそ行政。行政職員の立場に立って、中間支援が各課を回って、提案をしていく。(神谷)
- ★ こちらがきちんと勉強をすること。できる方法をきちんと調べる。行政でもなんとかかしたいと思っている人がいる。そういう人たちと非公式の勉強会を行う。普段から組織の壁を越えたコミュニケーションをとる努力をしてほしい。その中に住民を巻き込んで行く(島田)
- ★ 最終的に複数の課で対応するのか、一つの課が担当するのか。それぞれ落とし込み方が違う。相手にも判断してもらう必要もあるが、ある程度はこちらでイメージして行かないと冒険しすぎだろう。仮説がない中では、行政も辛い。間違ってもいいから、民間側で仮説を作ること。縦割りの中でどう機能させて行くかの方法論を考える。(川北)

住民と将来展望を共有するには？

- ★ 課題があり、理想があり、実現方法がある。まず、課題をどう共有するか。将来展望までの間に、中間の段階がある。まずはそこを目指し、当面の目標、時間的、解決のレベルなどの視点から設定する。アウトプットとアウトカムとインパクトのどこを目指して議論をするか。(島田)
- ★ 千葉県白石の事例。正確な情報(数値)を渡すことを大切に。現在、10年間の総合計画の後期5年を決める為に議論を重ねている。人口、財政状況の概算を提示し、それを踏まえて住民意識調査を実施した上

でそれぞれに改善プランを作った。住民は正確な情報を知らないからビジョンに乗ってこない。住民の人たちに情報を正確に伝える。材料を伝えないのに動かないのは当たり前。(川北)

会議の意義を出席者に分かってもらうためにはどうしたらいいか？

- ★ 合同事務局制を取るといい。みんなで役割分担をして参加者への声がけを行う。初期の段階は行政や地区の役を持っている方などに手伝ってもらおうといい。(川北)
- ★ 意義は、参加してみないと伝わらない。まずやってみること(川北)

若手を中心とした人材の確保と安定的な資金の確保はどうするか？

- ★ 雇用の環境がよくない。若手を中心に組織を確立したいなら、まず組織の事業を自分たちで確立することが必要。(松下)
- ★ 自分たちの業務として仕事を作り出すことがまずは必要。寄附文化も、日本の社会にはまだ定着していない。寄附制度をうまく活用できるようになることで、地域の信頼を得る一つの道となる。(松下)

円卓会議の関係機関への呼びかけをどうしたらいいか？

- ★ 利害があまり対立していない場合は、集まれるメンバーで集まるやり方はある。繰り返しになるが、利害の対立がある場合はそのメンバーは外せない。(島田)
- ★ 「地域円卓会議のススメ」の最終ページを見てほしい。化粧品の成分の動物実験廃止を目指す円卓会議を実施した。まずは非公式に企画をした。今は議事録がオープンになっている。赤裸裸なやり取りをしている。おっしゃる通り、利害衝突をする相手は外せない。予備的な会議をするなどして、とにかく席についてもらうこと。何回かかるか分からないが予備協議を重ねて欲しい。(川北)

最後に

(川北)「地域円卓会議のススメ」の4、5ページ

- ・ ステップ1～3に対する大切なポイントの確認

以上